

2022年度 母性看護学領域

中村幸代（教授） 竹内翔子（講師） 篠原枝里子（助教）



## 2022年度卒業研究発表会開催

2022年12月6日に卒業研究発表会がZoom開催され、母性ゼミ生9名が各自のテーマで発表を行いました。一部のゼミ生は、卒業研究の成果を専門学会での発表や論文投稿にも挑戦しました。

### <今年度の卒論テーマ>

- ・多胎児の母親に対する乳児期の育児負担軽減のための助産師の訪問看護支援
- ・より適切な産後の食生活形成を促すための助産師の継続的なかわり
- ・第二子妊娠で生じる退行現象に対する母親と第一子への助産所助産師の関わり～幼児期前期に焦点を当てて～
- ・助産所での自然分娩を希望する経産婦の分娩方法の意思決定要因
- ・助産所助産師における夫婦コペアレンティング促進のための支援の特徴
- ・母乳育児を希望するが授乳困難な状況にある母親に対する助産所での支援
- ・妊産婦の主体的な出産につなげるための助産師の関わり
- ・助産所での自然分娩実現のために助産師が行う妊娠期のかかわり

### <卒業研究を終えて>

助産所で卒業研究を行いました。助産師の持つ妊産婦の主体的な出産に向けた熱い思いや信念を学ぶことができました。この学びを今後の学習にも活かしていきたいです。

2022年度ゼミ生中本咲鈴さん



第36回神奈川母性衛生学会  
学術集会で発表しました

## 大学院生の研究活動

2022年12月13日に博士前期課程の論文審査が行われ、助産学分野の院生2名が審査を受けました。

### 大学院での研究活動を通して

入学当初は初めて取り組む量的研究と実習の両立に不安を抱いていましたが、先生方をはじめ多くの方々のご支援により研究を完成させることができ大変嬉しく思います。研究活動を通し、エビデンスの必要性を改めて実感する機会となったため、臨床でも研究に取り組み、社会へ貢献できるような助産師を目指します。

大谷 紗良さん

私は学部時代の卒業論文の経験しかなかった初学者ですが、大学院2年間を通して、研究の基礎から学び、修士論文を完成させることができました。先生方や大学院の同級生、研究対象者から多くのご教授・ご協力をいただきながら成長できたと実感しています。本研究で得た知見を今後の助産実践や研究へ活かしていきたいと思えます。

萩原 涼葉さん

2021年度に開講した助産学分野が完成年度を迎え、1期生2名が無事に修了し、国家試験にも見事合格しました。これから助産師としてたくさん活躍してください！

2期生2名も病院での分娩介助実習を終え、研究活動に取り組んでいます。次年度の助産院実習やフィリピンでの研究フィールドワークに向けた準備も頑張っています。



## 卒業生・修了生より

助産師6年目として、総合病院の産婦人科で働いています。今年出産をし、妊娠から産後まで身をもって色々なことを経験しました。今後は助産師としてさらに視野を広げ、世の中の女性がさらに輝けるような世の中にしていけるよう頑張っていきたいと思っています。

(2015年度卒業生 高崎(旧姓:浅村) 香那さん)

私は今、婦人科や泌尿器科などの混合病棟で勤務しています。現在の仕事も充実していますが、昨年母性実習に同行する機会があり、改めて新しい命と向き合う助産の現場に魅力を感じ、助産の道へ進むか検討中です。

(2017年度卒業生 宮本里香さん)

大学院での学びを生かし、産後うつや精神疾患合併、特定妊婦等、ハイリスクな背景を抱える妊婦の訪問看護を行っています。適宜区役所や医療機関とも連携を取り、メンタルケアや授乳、育児支援をしています。

(2020年度修了生 小倉果緒里さん)

★本学大学院へ進学をお考えの方はお気軽にご連絡ください。

連絡先：[ycubosei@yokohama-cu.ac.jp](mailto:ycubosei@yokohama-cu.ac.jp)

※2023年度のオープンラボは5月19日(金)に開催予定です。

